

# 自己評価 【すみよし愛児園】

評価日 (H28. 3. 31)

51項目

評価基準	評価項目ごとの評価結果	総合所見
<b>I. 子どもの発達援助</b>		
<b>1 発達援助の基本</b>		
1) 保育計画が、保育基本方針に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して作成されている。	①   b   c	保育計画は、年間指導計画・月間指導計画・週案を作成し、定期的に評価反省を行い記録している。  また、個々の指導計画も作成し、発達状況を記入し、職員へ周知している。  特に配慮が必要な場合については職員間で検討する機会を持ち、職員会議録に記録している。
2) 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき、指導計画を改定している。	①   b   c	
3) 一人一人の子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている。	①   b   c	
4) 一人一人の子どもの発達状況、保育目標、生活状況についての記録があり、それぞれの子どもに関係する全職員に周知されている。	①   b   c	
5) 一人一人の子どもの発達状況、保育目標、保育の実際について話し合うためのケース会議を定期的かつ必要に応じて開催している。	①   b   c	
<b>2 健康管理・食事</b>		
6) 登園時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人一人の健康状態に応じて実施している。	①   b   c	一覧表を作成し、一人一人の日々の健康状態を職員全員で把握している。  感染症が発生・流行した場合は感染経路の確認までを行える体制を作っている。また発生状況を速やかに通知したり、各家庭と情報交換しながら、保護者と協力して感染拡大防止に努めている。  アレルギー食（医師の診断書も必須）や離乳食は各家庭と進行状況を確認しながら、提供している。  子どもの年齢に合わせ、配置・方法を工夫した中でバイキングを行い、個人差や体調に合わせた量の調節や周囲への配慮を考えられるように配慮している。
7) 健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映している。	①   b   c	
8) 感染症への対応については、マニュアルがあり、発生に際しては、その状況を必要に応じて保護者に連絡している。	①   b   c	
9) 専門医から指示があった場合において、アレルギー疾患を持つ子どもの状況に応じて適切な対応をとっている。	①   b   c	
10) 日々の献立を保護者に示すとともに、必要に応じて、子どもの喫食状況を保護者に知らせている。	①   b   c	
11) 食事を楽しむことができる工夫をしている。	①   b   c	
ア. 食事をする部屋としての雰囲気作りに配慮している。	○	
イ. 食器の材質や形などに配慮している。	○	
ウ. 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。	○	
エ. 子どもの負担になるほどに、残さず食べることを強制したり、偏食を直そうと叱ったりしていない。	○	
オ. 子どもが落ち着いて食事を楽しめるように工夫している。	○	

カ. 時には戸外で食べるなどの工夫がある。	○	安心できる食材・旬の食材を用いて、手作りの給食・おやつを作っている。	
キ. おやつは手作りを心がけている。	○		
ク. 旬のものや季節感のあるものを多く取り入れている。	○		
ケ. 嗜好調査や喫食状況に基づき食事内容を改善している。	○		
コ. 子どもが育てた野菜などを料理して食べることがある。	○		作物の栽培・収穫、クッキング、行事食等だけでなく、給食担当者と子どもやりとりや当番活動、担任と子どもと一緒に食卓を囲むことなど、日々の食事環境にも工夫している。
サ. 子どもが配膳や後片付けなどに参加できるように配慮している。	○		
シ. 調理作業をしている場面を子ども達が見たり、言葉を交わしたりできるような工夫を行っている。	○		
<b>3 保育環境</b>			
12) 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	①   b   c	施設内は清潔に保つように心がけ、定期的にまた必要に応じて清掃を行っている。 またチェックリストを使い徹底されているかの確認も行なっている。	
ア. 採光に配慮している。	○		
イ. 換気に配慮している。	○		
ウ. 各部屋に室温計などがあり、温度・湿度に配慮している。	○		
エ. 手洗い場、トイレは、保育中も時折清掃し、不快なおいがないようにしている。	○		
オ. 寝具の消毒や乾燥を定期的に行っている。	○		
カ. 屋外の砂場や遊具の衛生面に配慮している。	○		
13) 生活の場に相應しい環境とする取り組みを行っている。	①   b   c	生活に合わせてスペースを分けることが可能。子どもの動線も考えながら、その時その時が心地よく過ごせるよう、配置なども工夫している。	
ア. 子どもが不安になったりしたときにいつでも応じられるように、保育者が身近にいる。	○		
イ. 一人一人の子どもがくつろいだり落ち着ける場所がある。	○		
ウ. 眠くなったときに安心して眠ることができる空間が確保されている。	○		
エ. 食事のための空間が確保されている。	○		
オ. 季節に合わせてインテリアが工夫されている。	○		
カ. 配色に配慮した保育室となっている。	○		
キ. 音楽や保育者の声など、音に配慮している。	○		
ク. 屋外での活動の場が確保されている。	○		
<b>4 保育内容</b>			
14) 子ども一人一人への理解を深め、受容しようと努めている。	①   b   c		
ア. 子どもに分かりやすい温かな言葉づかいで、おだやかに話している。	○		

イ. 「早くしなさい」とせかす言葉や「だめ」「いけません」など制止することはを不必要に用いないようにしている。	○	全職員で園児一人一人のことを理解し、その子にあった援助が出来るよう心がけている。待たせるときは見通しを持った声掛けをするよう心掛けている。
ウ. 子どもの質問に対して、「待ってて」「あとで」などと言わずに、なるべくその場で対応している。	○	
エ. 「できない」「やって」などと言ってくる子どもに対して、その都度気持ちを受け止めて対応している。	○	
オ. 「いや」などと駄々をこねたり、自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。	○	
カ. 登園時に泣く子どもに対して、放っておいたり、叱ったりするのではなく、子どもの状況に応じて、抱いたり、優しく声をかけたりしている。	○	
15) 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人一人の子どもの状況に応じて対応している。	①   b   c	子ども達は落ち着いて生活しているが、今後も個々にあったかわりについて、考えあう姿勢を全職員で持ち続けていく努力が必要。
ア. トイレに行くことをせかしたり、強制したりせずに、一人一人の子どもの状況に応じて対応している。	○	
イ. おもらしをしたときに、その都度優しく対応し、子どもの心を傷つけないように配慮している。	○	
ウ. 衣服の脱ぎ着に際して、せかしたり、着せてしまったりしないで、自分でやろうとする子どもの気持ちを大切にしている。	○	
エ. 子どもが自分で着脱しやすいように、衣類の整理の仕方や着方の援助について工夫がみられる。	○	
オ. 休憩時には、子守唄を歌ったり、背中を軽くたたくなど、安心して心地よい眠りにつけるように配慮している。	○	
カ. 休憩時間以外でも、一人一人の状況に応じて、眠らせたり、身体を休ませたりするようにしている。	○	
キ. 休憩時間に、眠くない子どもへの配慮をしている。	○	
16) 子どもが自発的に活動できる環境が整備されている。	a   ①   c	特に乳児については、成長段階や家庭での生活リズムを把握し、個々にあった授乳や睡眠時間等に配慮している。
ア. 子どもが発達段階に即した玩具や遊具が用意されている。	○	
イ. 子どもが自由に素材や用具などを自分で取り出して遊べるように工夫されている。	○	
ウ. 好きな遊びができるコーナーが用意されている。	○	
エ. 子どもが自由に遊べる時間が確保されている。	○	自由に遊べる時間や空間は確保されている。昨年より環境をテーマに園内外の研修等で勉強している。子どもの姿や成長を見ながら、今後も研修や実践を通して子ども達により充実した環境づくりに努めたい。
17) 身近な自然や社会と関われるような取り組みがされている。	①   b   c	
ア. 子どもが身近に動植物に接する機会をつくっている。	○	
イ. 園庭や散歩で拾ってきた葉や木の実など、季節感のある素材を活用している。	○	
ウ. 散歩などで地域の人たちに接する機会をつくっている。	○	散歩に出かけたり、地域の方へのあいさつなど、身近な方への関わりを大事にしている。  また、遠足等では路線バスや電車を利用するなど、公共機関の利用もある。

エ. 地域の公共機関を利用するなど、社会体験が得られる機会をつくっている。	○	
18) 様々な表現活動が自由に体験できるように配慮されている。	①   b   c	
ア. 子どもが自由に歌ったり、踊ったりする場がみられる。	○	年間を通して行っているが、行事に向けた準備とにならないよう、子ども達の興味関心に合わせて表現活動も様々な広げている。
イ. 様々な楽器を楽しめるようになっている。	○	
ウ. クレヨン・絵の具・粘土・紙など、様々な素材を子ども達が自分で使えるように用意されている。	○	
エ. 子どもの作品が、保育に活かされたり、工夫して飾られたりするなど、大切に扱われている。	○	
オ. 身体を使った様々な表現遊びが取り入れられている。	○	
カ. 絵本の読み聞かせや紙芝居などを積極的に取り入れている。	○	
19) 遊びや生活を通して、人間関係が育つよう配慮している。	①   b   c	遊びの中で自分を含めた様々な人の気持ちに気付けるよう援助している。
ア. 子ども同士の関係をよりよくするような適切な言葉かけをしている。	○	人との関わり方や、社会的ルールなど時間をかけ、教え込むのではなく、共に考えるようにしている。
イ. けんかの場面では、危険のないように注意しながら、子ども達同士で解決できるように援助している。	○	
ウ. 順番を守るなど、社会的ルールを身につけていくよう配慮している。	○	
エ. 当番活動などが日常生活の中で行われている。	○	
オ. 異年齢の子どもの交流が行われている。	○	
20) 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮している。	①   b   c	
ア. 子どもが、自分の意見を保育者などの大人にはっきり言うことができるよう配慮している。	○	子ども一人一人が何を感じ、どうしたいのかなど丁寧に受け止めるようにしている。
イ. 子どもが、他の子どもの気持ちや発言を受け入れられるよう配慮している。	○	
ウ. 一人一人の子どもの生活習慣や文化、考えなどの違いを知り、それを尊重する心を育てるよう努めている。	○	また、様々な人との関わりの中で、自分や周りの人の気持ちを一緒に考え、お互いを大切にする心を育むよう配慮している。
エ. 子どもの人権への配慮や互いを尊重する心を育てるための具体的な取り組みを行っている。	○	
オ. 子どもの人権擁護に関する研修等に職員が参加している。	○	
21) 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないように配慮している。	①   b   c	
ア. 「男の子だからめそめそするな」などと、子どもの態度について、性差への先入観による固定的な対応をしていない。	○	男の子のよさ、女の子のよさを認めることはあるが、意思や遊びを決め付けることはない。

イ。「それは女の子の色」などと、子どもの服装について、性差への先入観による固定的な対応をしていない。	○	
ウ。「それは女のこの遊び」などと、子どもの遊び方について、性差への先入観による固定的な対応をしていない。	○	
エ。「男の子だから家事をすることはない」などと、育児、家事、介護などについて、性差への先入観による固定的な対応をしていない。	○	
オ。「それは男(女)の子の仕事」などと、職業について、性差への先入観による固定的な対応をしていない。	○	
22) 乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる。	①   b   c	
ア. 授乳は、子どもが欲しがる時に、抱いて目を合わせたり、微笑みかけたりしながらゆったりと飲ませている。	○	一人一人の欲求にあわせ、満足した生活が送れるよう配慮している。  また、家庭とのやり取りも毎日丁寧に行い、環境や対応が大きく変わり負担に感じることがないよう配慮している。
イ. 離乳食については、家庭と連携をとりながら、一人一人の子どもの状況に配慮して行っている。	○	
ウ. おむつ交換時は、やさしく声をかけたり、スキンシップをとりながら行っている。	○	
エ. 一人一人の生活リズムに合わせて睡眠をとることができるように、静かな空間が確保されている。	○	
オ. 外気に触れたり、戸外遊びを行う機会を設けている。	○	
カ. 喃語には、ゆったりとやさしく応えている。	○	
キ. 顔を見合ってあやしたり、乳児とのやりとりや触れ合い遊びを行っている。	○	
ク. たて抱き、腹這いなど、子どもの姿勢を変えている。	○	
ケ. 寝返りのできない乳児を寝かせる場合には仰向けに寝かせている。	○	
コ. 特定の保育者との継続的な関わりが保てるように配慮している。	○	
23) 長時間による保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる。	①   b   c	
ア. 家庭的な雰囲気が感じられる。	○	それぞれの年齢に配慮した過ごし方を工夫したり、保育者との関わりをベースに安定した気持ちでお迎えが待てるようにしている。
イ. 好きなことをしてくつろげる空間や遊具がある。	○	
ウ. 長時間保育を受ける子どもに夕食や軽食が提供されている。	○	
エ. 一人一人の要求に応じて、抱いたり、声をかけるなど、ゆったりと接している。	○	
オ. 異年齢の子ども同士で遊べるように配慮されている。	○	
カ. 子どもの状況について、職員間の引継ぎを適切に行っているか。	○	
24) 障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	①   b   c	

ア. 障害のない子どもの、障害児への関わりに対して配慮している。	○	巡回指導や保護者との面談、クラス懇談会などを実施し、障害を持つ子どもとそうでない子どもお互いが支えあって過ごせるよう、周りの人との交流も持っている。	
イ. 園舎はバリアフリーの配慮が見られる。	○		
ウ. 障害児の特性に合わせた園での生活の仕方の計画が立てられている。	○		
エ. 障害児保育について保育所全体で定期的に話し合う機会を設けている。	○		
オ. 障害児保育に携わる者は、障害児保育に関する研修を受けている。	○		園の中でコーディネーターを配置し積極的に研修を受けたり、専門機関と連携がとれるようしくみ作りをしている。
カ. 医療機関や専門機関から相談や助言を必要に応じて受けられる。	○		
キ. 保護者に、障害児に関する適切な情報を伝えるための取り組みを行っている。	○		
<b>II. 子育て支援</b>			
<b>1 入所児童の保護者の育児支援</b>			
1) 一人一人の保護者と、日常的な情報交換に加え、個人面談などを行っている。	①   b   c	日常のやり取りに加え、新入園児家庭には園長と担任による家庭訪問や全園児家庭には個人面談が行われている。	
2) 家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている。	①   b   c		
3) 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いに加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている。	①   b   c		懇談会に限らず、保育参加や保護者中心のイベントなどを行った。日頃聞けない話や見えない姿も感じられることができよい機会となっている。
4) 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに園長まで届く体制になっている。	①   b   c		
5) 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている。	①   b   c		チェックリストを用いた確認や職員間での情報交換を日々行っている。
<b>2 多様な子育てニーズへの対応</b>			
6) 多様な子育てニーズを把握するための取り組みを行い、それを事業に反映している。	①   b   a		
<b>3 地域の子育て支援</b>			
7) 育児相談など地域の子育て家庭を対象とする子育て支援の取り組みを行っている。	①   b   a	子育て支援センターの利用や入園のための相談の中で、子育て相談に繋がるケースも多い。今後も気軽に相談できる場所であるよう、まずは行ってみよう・連絡してみようと思えるようなきっかけ作りに力を入れる。	
ア. 電話やファックスなどによる子育て相談を行っている。	○		
イ. 来園子育て相談を行っている。	○		
ウ. 育児情報の提供を子になっている	○		
エ. 地域の子育て家庭の親子が定期的に集まる機会を設けている。	○		
オ. 地域の子育て家庭の親子と園に通っている親子が交流する機会を設けている。	○		

<p>カ. 地域の母子保健活動と連携した取り組みを行っている。</p>	<p>○</p>	
<p>8) 一時保育は、一人一人の子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている。</p> <p>ア. 一時保育のための保育室の確保などに努めている。</p> <p>イ. 一時保育のための担当者が決められている。</p> <p>ウ. 一人一人の子どもの日々の状態を把握している。</p> <p>エ. 保護者とのコミュニケーションを十分にとっている。</p> <p>オ. 一時保育を利用する子どもと通常保育の子どもとの交流に配慮している。</p>	<p>a   b   c</p>	
<p>Ⅲ. 地域の住民や関係機関との連携</p> <p>1 地域の住民や関係機関・団体との連携</p> <p>1) 保育所の役割を果たすために必要な地域の関係機関などの情報を収集し、それを職員が共有している。</p> <p>2) 子どもの健康状態について、医療機関などに相談や連携ができる体制になっている。</p> <p>3) 育児相談などに際して、児童相談所などの専門機関に相談や連携ができる体制になっている。</p> <p>4) 小学校との間で、小学生と園児とが互に行事等で交流する機会を設けており、職員の話し合い、研修などの機会がある。</p> <p>5) 民生・児童委員や自治会等の地域団体と連携した取り組みを行っている。</p> <p>6) 近隣の人々に保育について理解を得たり、協力を依頼するなどの配慮をしている。</p> <p>7) 中高生などの保育体験を受け入れるに当たり、受け入れの意義や方針が全職員に理解され、受け入れの担当者も決められている。</p>	<p>㊦   b   c</p> <p>㊦   b   c</p> <p>㊦   b   c</p> <p>㊦   b   c</p> <p>㊦   b   c</p> <p>㊦   b   c</p> <p>㊦   b   c</p>	<p>関係機関とは常に連携が取れる状態にある。</p> <p>関係機関とは常に連携が取れる状態にある。</p> <p>小学校とは就学前に全卒園児の学校と連絡をとり情報交換をしたり、入学後も学校開放日などに職員が参加させてもらっている。</p> <p>行事や日常の保育の際にも地域の方と交流が持てる内容に配慮したり、内容を通知で知らせるようにすることで、参加者として園行事を考えてもらえるよう配慮している。</p>
<p>2 実習・ボランティア</p> <p>8) 実習生を受け入れるにあたっては、受け入れの意義や方針が全職員に理解され、実習担当者も決められている。</p> <p>9) ボランティアを受け入れるにあたっては、受け入れの意義や方針が全職員に理解され、受け入れの担当者も決められている。</p>	<p>㊦   b   c</p> <p>㊦   b   c</p>	<p>ボランティアや実習生とは共に学びの機会となるよう、事前の打合せをしっかりと行い、積極的に受け入れるようにしている。</p>
<p>Ⅳ 運営管理</p> <p>1 基本方針</p> <p>1) 保育所の保育理念および基本方針が明文化されている。</p> <p>2) 保育理念や基本方針を職員、保護者、関係者に周知するための取り組みを行っている。</p>	<p>㊦   b   c</p> <p>㊦   b   c</p>	

<p>2 組織運営</p> <p>3) 保育の質の向上や改善のための取り組みを、職員参加により行っている。</p> <p>4) 保育の内容について、職員参加により、定期的に自己評価を行っている。</p> <p>5) 職員の研修ニーズを把握し、職員に適切な研修機会を確保している。</p>	<p>①   b   c</p> <p>①   b   c</p> <p>①   b   c</p>	<p>日・月・年ごと保育や自己の評価を行い、毎月の職員会議で共有している。</p> <p>各研修には園の意向だけでなく本人の希望を確認し、積極的に参加している。</p>
<p>3 守秘義務の遵守</p> <p>6) 守秘義務の遵守を周知している。</p>	<p>①   b   c</p>	
<p>4 情報提供・保護者の意見の反映</p> <p>7) 情報提供に当たって、分かりやすく伝える工夫や配慮を行っている。</p> <p>ア. 園だより、クラスだより等を配布している。</p> <p>イ. 園の掲示等による保護者への情報提供について、分かりやすく伝える工夫が見られる。</p> <p>ウ. パンフレットや要綱等を園児の保護者以外にも配布している。</p> <p>エ. 園外向けの掲示板やポスター等で、園児の様子や行事などについて、地域の人にも見てもらえるようにしている。</p> <p>オ. ホームページや情報誌なども誰もが安易に入手できる形態の広報媒体がある。</p> <p>カ. 園の運営状況等についての情報を求めに応じて公開できるようにしている。</p> <p>8) 保育の実施に当たり、保護者から意見を聞くための取り組みを行い、その意向に配慮している。</p>	<p>①   b   c</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>毎月園だより・クラスだより・献立表を配布し、必要な情報や現在の様子が伝わるよう配慮している。</p> <p>HPには基本的な園の情報はもちろん保護者・未就園児家庭・学生・卒園児等に向けた情報がある。</p> <p>グリーンプロジェクトとして保護者の意見を受け取る仕組みを実施している。</p>
<p>5 安全・衛生管理</p> <p>9) 事故や災害に適切に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。</p> <p>10) 事故防止のための具体的な取り組みを行っている。</p> <p>11) 調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている。</p>	<p>①   b   c</p> <p>①   b   c</p> <p>①   b   c</p>	<p>ヒヤリハット記録を基本にひとつの問題を全職員で周知・改善に努めている。</p>

#### V 全体の総合所見

PDCAサイクルを習慣化し、職員間で常に子ども達にとってより安心できる生活について考え合っている。

環境を作るだけでなく、子ども達の興味関心にあわせて子ども達自らが変化させられるような環境も大事にしてきた。

遊び込んだ子ども達のその先にある成長を見逃すことなく、保育者がどんな関わりをしていくのか、どんな関わりが必要だったのかなどを職員間でも振り返るような体制作りにも更に力を入れていく必要がある。